

集計

『ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！』キックオフイベント アンケート

配布数	1059 枚	用紙回収数	456 枚
アンケート回収率	43.1 %		

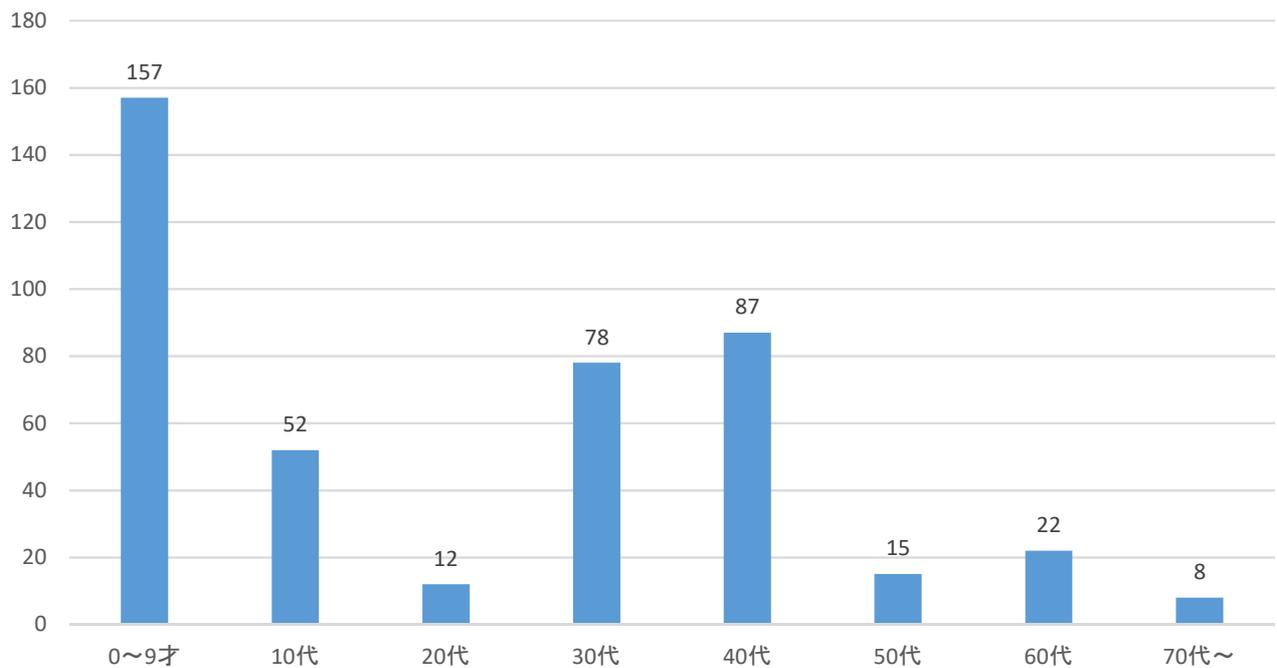
● 本イベントへのご参加について

・ お客様のご年齢をお教えてください

回答数 431 人

0～9才	157 人	(36.4 %)
10代	52 人	(12.1 %)
20代	12 人	(2.8 %)
30代	78 人	(18.1 %)
40代	87 人	(20.2 %)
50代	15 人	(3.5 %)
60代	22 人	(5.1 %)
70代～	8 人	(1.9 %)

イベント参加者の年代[人]



所見:

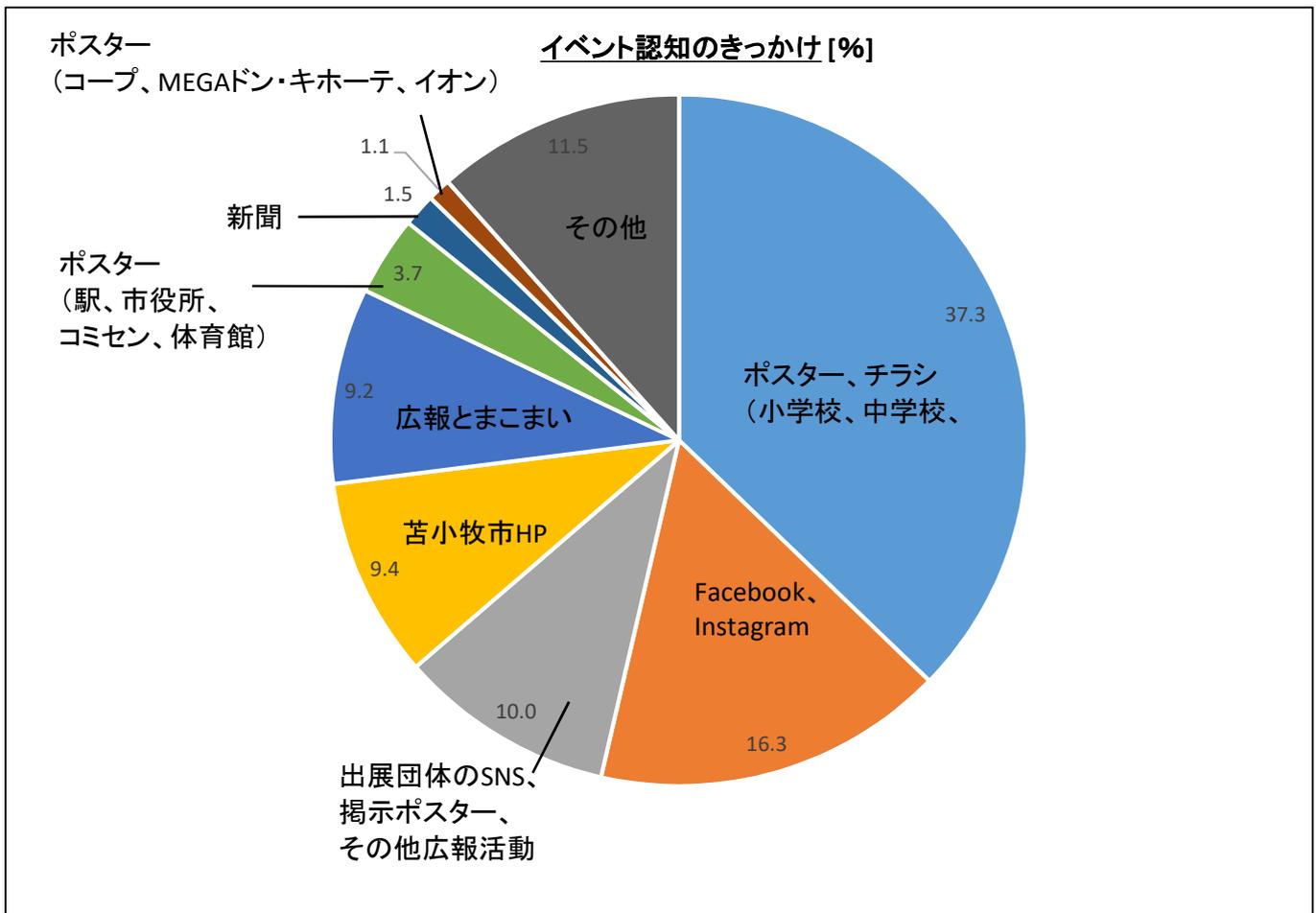
- ・【イベント参加者の年代】で多い年代は0～9才であり、次いで40代、30代がほぼ同列となっている。また、40代、30代の合算値は165人となっており、これは0～9才の157人や、それに10代を加えた209人に近い値である。これらの傾向から、回答者の4分の3以上に相当する約75～87%が親子連れであると推定される。
- ・反してイベント自体に興味を持って貰えなかったのか、又はアンケート回収率が悪かったのかは不明だが、20代、50代以降は極端に低い結果であった。

・このイベントをどこで知りましたか？

回答数

459 人

ポスター、チラシ(小学校、中学校、児童センター)	:	171 人 (37.3 %)
Facebook、Instagram	:	75 人 (16.3 %)
出展団体のSNS、掲示ポスター、その他広報活動	:	46 人 (10.0 %)
苫小牧市ホームページ	:	43 人 (9.4 %)
広報とまこまい	:	42 人 (9.2 %)
ポスター(駅、市役所、コミセン、体育館)	:	17 人 (3.7 %)
新聞	:	7 人 (1.5 %)
ポスター(コープ、MEGAドンキホーテ、イオン)	:	5 人 (1.1 %)
その他	:	53 人 (11.5 %)
・無回答 × 24	・家族から × 4		
・友達 × 10	・参加者 × 3		
・LINE × 10	・ダンス × 2		



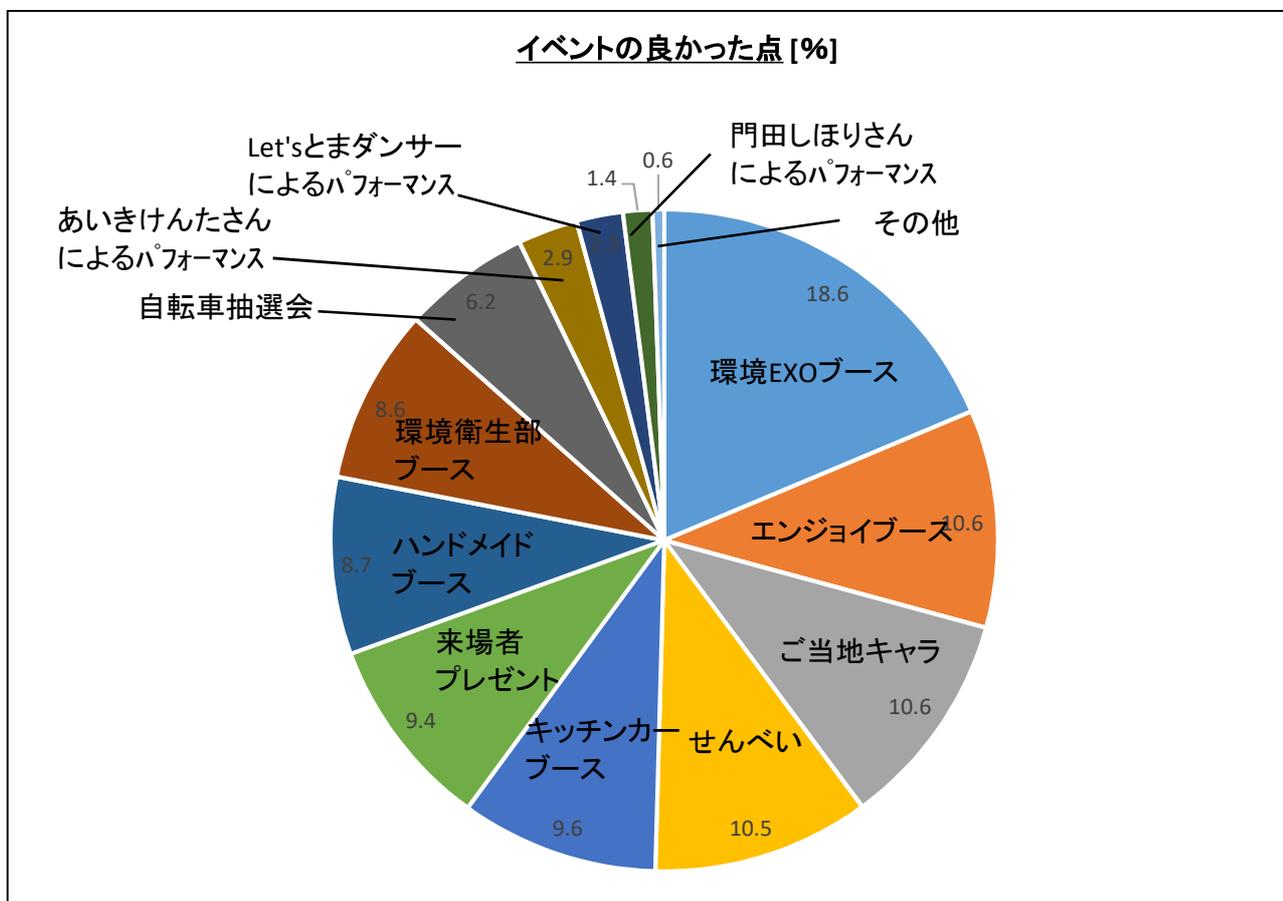
所見:

- ・【イベント認知のきっかけ】の一番の理由は、『ポスター、チラシ(小学校、中学校、児童センター)』であり、これはイベント直前の4/25までの全生徒配布が、前述の【イベント参加者の年代】と大きく関連していると考えられる。
 - ・また、それ以外の理由としてはポスター(駅、市役所、体育館、コープ、MEGAドンキホーテ、イオン)や広報とまこまい、新聞等の紙面系媒体を合算しても約16%に留まっていた。
 - ・一方で『Facebook、Instagram』は約16%となっており、複数回投稿や直前・当日の投稿が可能なデジタル系媒体は比較的高い周知効果が得られた。
- ※Facebook:2回、Instagram:4回、LINE:2回(ゼロゴミファイブの個別アカウントの投稿を除く)

・このイベントで良かった点を教えてください(複数回答可)

回答数 のべ 1063 人

環境EXPOブース	:	198 人 (18.6 %)
エンジョイブース	:	113 人 (10.6 %)
ご当地キャラとの撮影	:	113 人 (10.6 %)
せんべいまき	:	112 人 (10.5 %)
キッチンカーブース	:	102 人 (9.6 %)
来場者プレゼント(ガチャポン)	:	100 人 (9.4 %)
ハンドメイドブース	:	92 人 (8.7 %)
環境衛生部ブース	:	91 人 (8.6 %)
自転車抽選会	:	66 人 (6.2 %)
あいきけんたさんによるパフォーマンス	:	31 人 (2.9 %)
Let'sとまダンサーによるパフォーマンス	:	24 人 (2.3 %)
門田しほりさんによるパフォーマンス	:	15 人 (1.4 %)
その他	:	6 人 (0.6 %)
・無回答	×	3	・たくさんの曲が聞けi・オープニング
			・クイズラリー



所見:

- ・【イベントの良かった点】については、イベント内容の多くが体験・参加型であり、多くのブースが約10%前後で票が分散している。
 その中でも出展数が多い環境EXPOブースは約19%と各個の倍近く支持されていた。
- ・一方で来場者が比較的前半に集中したことに伴い、観覧型のステージイベント関係(あいきけんたさん、門田しほりさん、Let'sとまダンによるパフォーマンス)については合算でも約7%となり、参加・体験型に需要がある結果となった。
- ・また、せんべいまき、自転車抽選会、来場者プレゼントは各々に時間的制約や参加条件があるにも係わらず合算して約26%となっており、来場目的となっている可能性が示唆された。

- ・このような企画 × 3
- ・コスプレ大会
- ・ピアノのイベント
- ・未来けいTESLA
- ・未来けいspaceX
- ・クレンゲーム
- ・あそべるのが良かった
- ・体験イベント楽しかったです。またやって欲しい。
- ・お花のイベント
- ・同じように子供が楽しめる × 3
- ・いろんな食べ物のイベント × 2
- ・ビンゴ大会
- ・動くクルマのイベント × 3
- ・リサイクル
- ・いろいろなお仕事体験会
- ・生き物との触れ合いイベント
- ・ごみ処理場見学会

所見:

【今後行って欲しいイベント】については、「このような企画(=今回イベント)」以外にも、「体験」、「楽しめる」等の単語が多く書かれており、参加・体験型を希望する声が多く寄せられた。

● ゼロカーボンについて

- ・ 今まで「ゼロカーボン」や「カーボンニュートラル」、「脱炭素」という言葉を聞いたことがありましたか？

回答数 406 人

ある : 305 人 (75.1 %) ない : 101 人 (24.9 %)

所見:

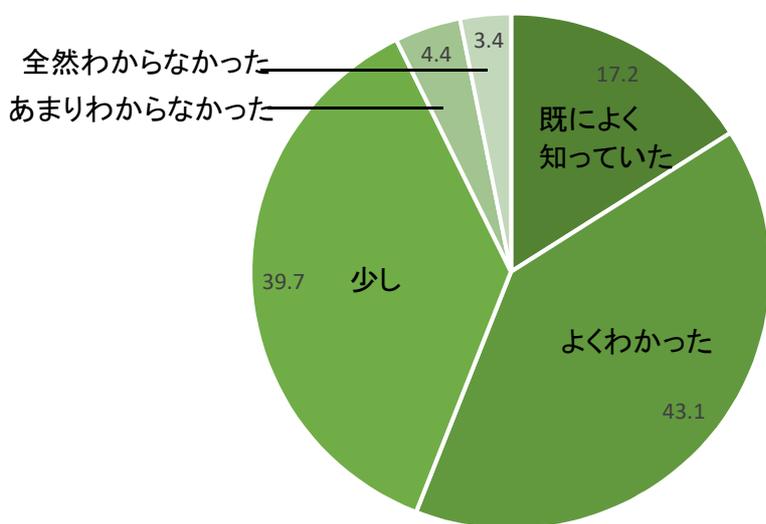
回答者の約75%が「ゼロカーボン」、「カーボンニュートラル」、「脱炭素」という言葉を耳にしており、少なくとも参加者の多くを占める10才未満や30~40代には広く浸透している事がわかった。

- ・ このイベントで「ゼロカーボン」についてどれくらい知って貰えましたか？

回答数 383 人

既によく知っていた : 66 人 (17.2 %)
 よくわかった : 165 人 (43.1 %)
 少しわかった : 152 人 (39.7 %)
 あまりわからなかった : 17 人 (4.4 %)
 全然わからなかった : 13 人 (3.4 %)

イベントをきっかけとした「ゼロカーボン」への理解度 [%]



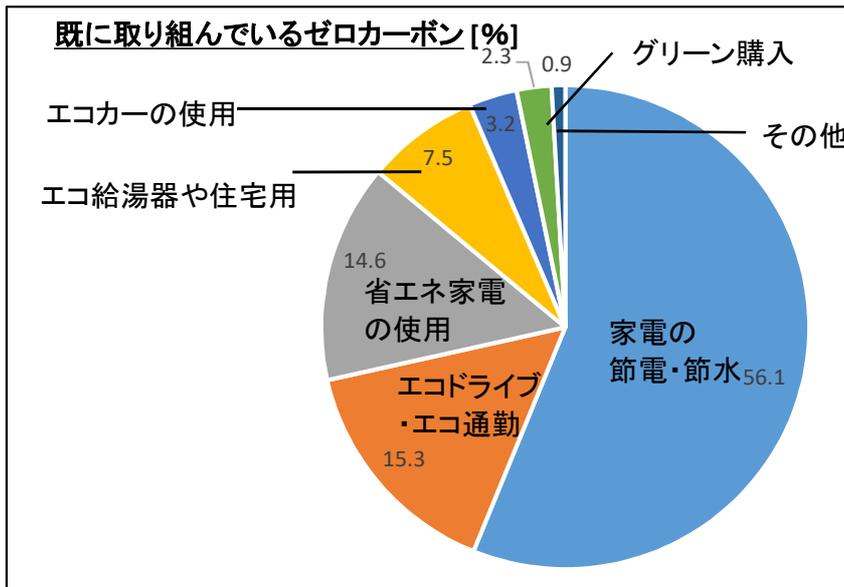
所見:

【イベントをきっかけとした「ゼロカーボン」への理解度】については、回答者の約83%が「よくわかった」又は「少しわかった」と回答しており、キックオフイベントとして、ゼロカーボンの周知の役割を果たしたと言える。

・今までご自身で取り組んできたゼロカーボンがあれば教えてください(複数回答可)

回答数のべ 561 人

家電の節電・節水	:	315 人 (56.1 %)
エコドライブ・エコ通勤	:	86 人 (15.3 %)
省エネ家電の使用	:	82 人 (14.6 %)
エコ給湯器や住宅用太陽光パネルの使用	:	42 人 (7.5 %)
エコカーの使用	:	18 人 (3.2 %)
グリーン購入認定製品の優先	:	13 人 (2.3 %)
その他	:	5 人 (0.9 %)
・無回答 × 4 ・エコバッグの使用			



所見:

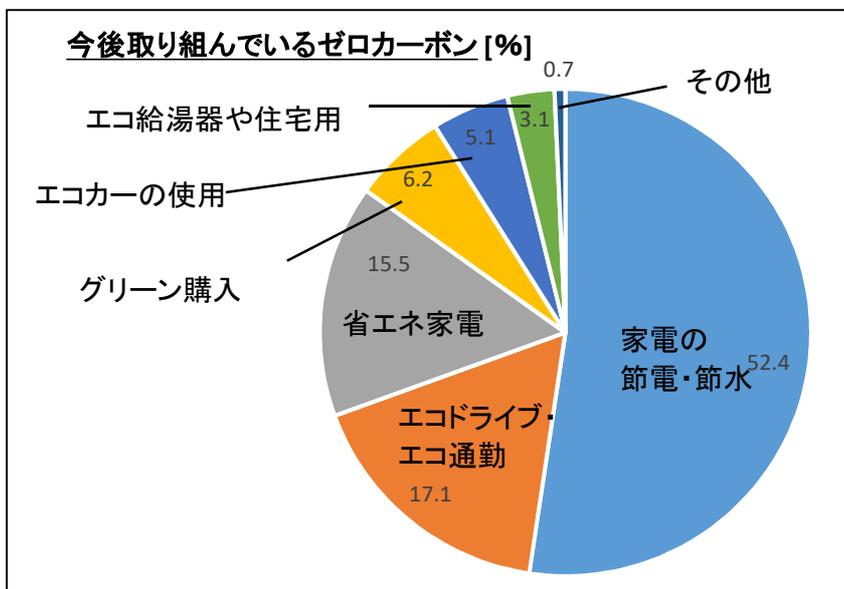
・【既に取り組んでいるゼロカーボン】の調査では、家電の節電・節水が約56%となっていた。また、エコドライブ・エコ通勤や省エネ家電の使用はいずれも15%前後となっており、電気代や燃料費の削減に繋がる取組みは積極的に実施されていることがわかる。

・グリーン購入認定製品の優先や初期投資の大きいエコカーや住宅用の省エネ設備は普及が進んでいないことがわかった。

・これから取り組んでみたいゼロカーボンを教えてください(複数回答可)

回答数のべ 550 人

家電の節電・節水	:	288 人 (52.4 %)
エコドライブ・エコ通勤	:	94 人 (17.1 %)
省エネ家電への買い替え	:	85 人 (15.5 %)
グリーン購入認定製品の優先	:	34 人 (6.2 %)
エコカーへの買い替え	:	28 人 (5.1 %)
住宅のZEH化	:	17 人 (3.1 %)
その他	:	4 人 (0.7 %)
・無回答 × 3 ・できない			



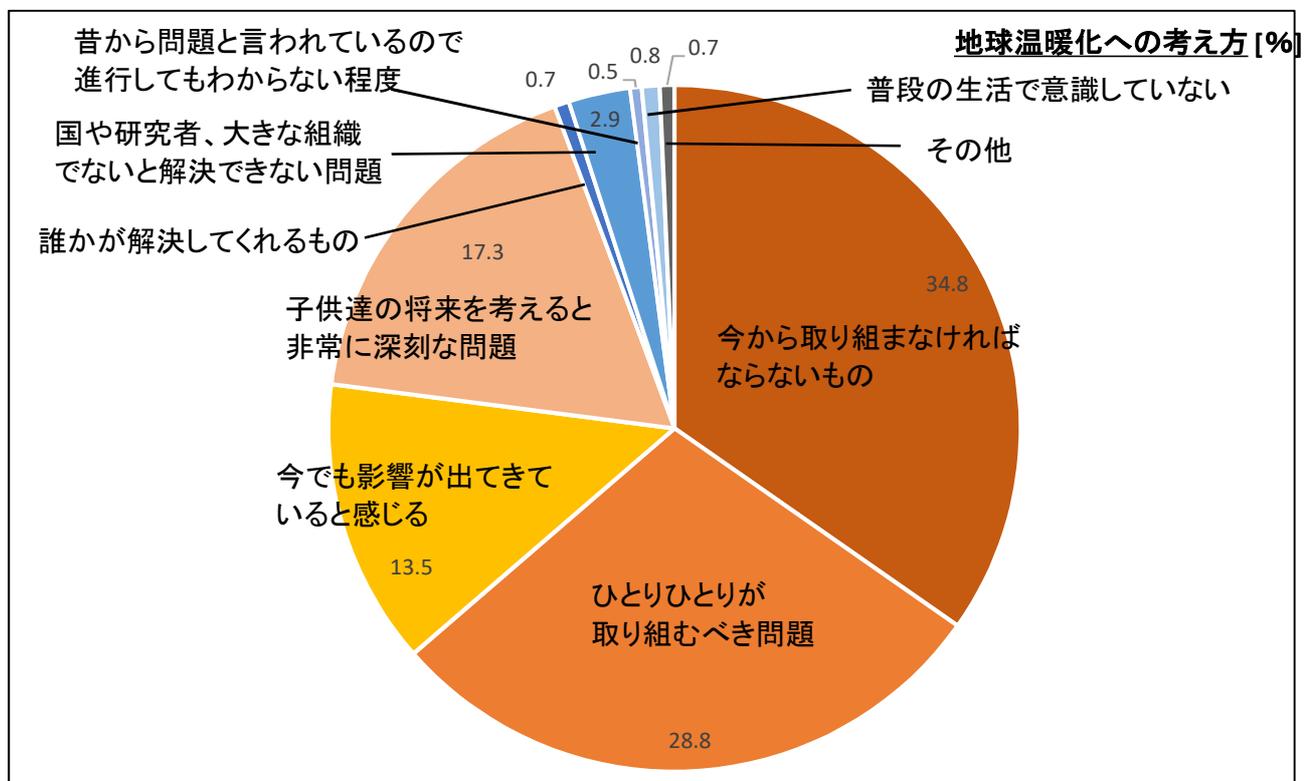
所見:

【今後取り組んでみたいゼロカーボン】の調査では、【既に取り組んでいるゼロカーボン】とほとんど同じ傾向となっており、グリーン購入認定製品、エコカー、住宅用の省エネ設備の普及の課題が経済面の理由であることが明らかとなっている。

・ 地球温暖化についてどのように思いますか？近いものを教えてください(複数回答可)

回答数 のべ 728 人

今から取り組まなければならないもの	:	253 人 (34.8 %)
ひとりひとりが取り組むべき問題	:	210 人 (28.8 %)
今でも影響が出てきていると感じる	:	98 人 (13.5 %)
子供達の将来を考えると非常に深刻な問題	:	126 人 (17.3 %)
誰かが解決してくれるもの	:	5 人 (0.7 %)
国や研究者、大きな組織でないと解決できない問題	:	21 人 (2.9 %)
昔から問題とされているので進行してもかわらない程	:	4 人 (0.5 %)
普段の生活で意識していない	:	6 人 (0.8 %)
その他	・無回答 × 2	: 5 人 (0.7 %)
	・北電の会長たちがもっと考えてください	
	・もっと昔から対策をやるべきだった	
	・個人が意識しないでもだれでも自然とできる仕組みが必要	



所見:

【地球温暖化への考え方】の調査では、大まかにポジティブな選択肢とネガティブな選択肢を設定しており、結果としてはポジティブな選択肢が回答の約94%とかなり高い割合を示している。

全体所感:

将来を担う10~20代までの世代やイベントへの参加が少なかった50代以降にも参加、若しくはゼロカーボンについて伝えられる工夫を要すると思う。

参加者にはゼロカーボンについて知ってもらうことができ、また、既に認知した上で取り組んでいる方も多くいることが分かった。

今後も体験や楽しみの中から学べるイベントを実施することが大事であると感じた。